

「いじめシンポジウム」について

令和元年度
高森東小学校 PTA研修会

令和元年12月2日

いじめ防止シンポジウム



1年生を迎える会 ふれあいタイム

【いじめ防止シンポジウムの目的】

- ・ 学校の**取組と現状**を伝える。
- ・ いじめの**未然防止**を図る。
- ・ 意見交換を通して、**情報の共有**を図る。



業間マラソン

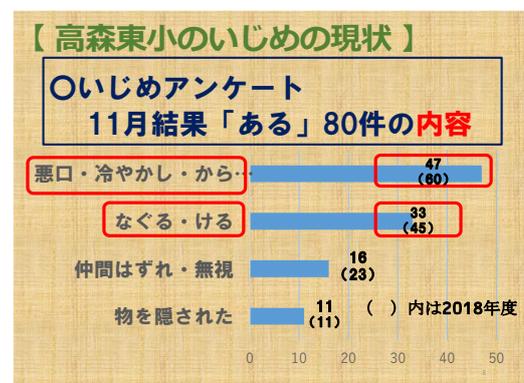
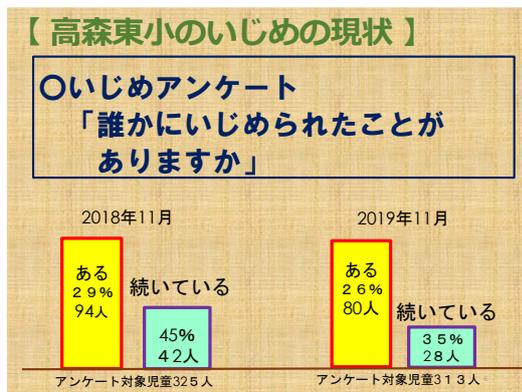
1 概要

- (1) 父母教師会会長挨拶
- (2) 学校長挨拶
- (3) いじめについて学校からの説明
 - ① いじめとは (いじめのとなえ)
 - ・ 本人が「いやだ」と感じたら、立場、回数、人数に関係なくそれは「いじめ」。
 - ・ いじめ解消を「3 か月間いじめ行為がない」「心身の苦痛を感じていない」としている。
 - ② 学校 (高森東小) のいじめの現状

【いじめとは・・・】

本人が「いやだ」と感じたら、
立場、回数、人数に関係なく
それは「いじめ」

- ・ 心理的、物理的に影響を与える (インターネットを含む) 行為
- ・ 対象となった児童が心身の苦痛を感じているもの



<アンケート実施>

- ・ 本校では、子供たちに、年に4回(6月・9月・11月・2月)に「学校生活アンケート」を実施。

<アンケート結果 (現状) 2018年 (11月) と 2019年 (11月) で比較>

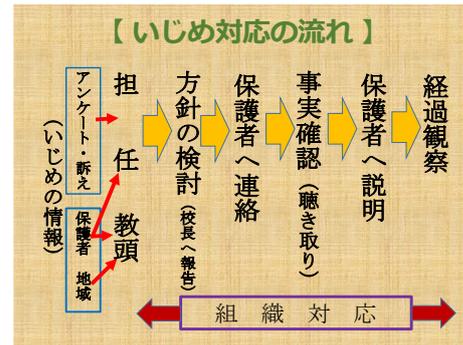
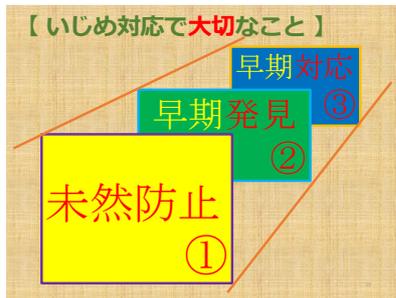
- ・ 2018年 (11月) アンケートでは、「いやだと感じることもある」と回答した児童は94人。全児童数の29%。「いやだと感じた」94人のうち、アンケート調査時点で42人、いじめ件数全体の45%が「今も続いている」と回答。2019年 (11月) では、「いやだと感じることもある」と回答した児童は80人。全児童数の26%。4に1人の子供が苦しんでいる。また、アンケート調査時点で、28人、「いじめ」件数全体の35%が「今も続いている」と回答。「今も続いている」と答えた子供が昨年より減少したとはいえ、それでもまだ3割を越える。
- ・ いじめの内容は、「悪口・冷やかし・からかい」47 (60) 件、「なぐる・ける」33 (45) 件、「仲間はずれ・無視」16 (23) 件、「物を隠される」11 (11) 件で、前年比で減少または同件数という結果だった () 内は2018年度の件数、複数回答を認めている)。依然として多いのは「悪口・冷やかし・からかい」。

③ いじめへの対応

＜いじめ対応で大切なこと＞

- ・未然防止
- ・早期発見 ・早期対応

＜学校でのいじめへの対応の大まかな流れ＞



＜いじめの未然防止への取組＞

- ・きずなキャラ募集
- ・きずな標語
- ・ポスターの掲示
- ・あいさつ運動 等

- (4) 基調講演「私たち大人ができること」宮城教育大学教職大学院
准教授 佐藤美知子様 (2016～2018 年度本校教頭)

- (5) グループでの意見交流 (茶話会)
- ・親子の対話について、保護者、地域の方、教職員を
合わせて5～7名程度のグループでの意見交流。



【グループでの意見交流の様子】

2 参加者の感想

- ・基調講演はとても分かりやすく、保護者向けに良かったと思います。地域の方々や保護者の方々の日常の様子、子供との関わりについて気軽に情報共有できた事は有意義でした。
- ・とても考えさせられるお話を聞くことができました。また、いろいろな方々と意見交換もでき、充実した貴重な時間となりました。もっと時間があればよかったです。なかなかない機会なので、地域の方のお話をもっとお聞きしたかったです。本当に良いシンポジウムなので、もっとたくさんの方々が参加してくれたら良いと思います。
- ・基調講演のいじめに関する捉え方の話が大変参考になりました。特に、重松清のかなこちゃん※の話のエピソード大変心に染みました。※重松清「ビタミンF」内の「セッちゃん」に登場する少女の名前。
- ・いざ、いじめが発生すると、保護者と学校は対立してしまうことが多いが、ふだんよりこのようなシンポジウムを重ねていけば、その対立が軽減されるのではないかと思います。
- ・様々な意見を聞くことができ大変有意義でした。茶話会の時間がもう少しあると良いと思いました。子育てや生きる上でのヒントをいただきました。
- ・今年初めて参加しました。とても有意義な時間でした。学校での出来事、嫌だったこと、聞きたいと思った時、他の兄弟がいない親子の1対1の時間が大切だと実感しました。上の子にとって下の兄弟に聞かれないというプライドがあるということに気がきました。
- ・子供の好きなことを楽しくさせていくことが大事で、いじめは大人になる足がかりであるので、そんなにナーバスにならないでおいた方が良いと思いました。
- ・学年を越えて、ふだんお話をする機会がない地域の方々とも、いろいろ話が聞けて良い時間になりました。ぜひ第3回も開催していただきたいです。
- ・佐藤先生のお話がとても参考になりました。子供が学校の様子を話してくれないので分からないことが多いのですが、話さないからと子供を責めず、成長過程として捉えていきたいと思いました。もっと親子の対話をする必要があると感じました。
- ・各テーブルでのディスカッションは保護者だけでなく地域の方も一緒なので、違う年代の方のお話を聞ける数少ない貴重な時間となりました。子育てをしていく途中で、それが何人目の子供でも、初めての経験となるが多々あり、そういう時、自分1人で抱え込んでしまうこともあります。このように他の方々とお話をする機会はとても大切なことだと思います。